

志賀町小学校英語教育プロジェクト

団体名 ● 前田ゼミナール、KSCG サークル

代表者名 ● 前田昌寛 (人文学部国際文化学科・准教授)

1 はじめに

学習指導要領の改訂によって、2020年度より小学校において、正式な教科として「英語」が始まっている。ますます小学生の英語に触れる機会が増える現実とともに、英語が苦手という児童も増えている。文部科学省の全国学力・学習状況調査では、「英語の学習(勉強)が好き」と答えた小学6年生が、2013年度は「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」の合計が23.7%だったのに、2021年度は31.5%となっている。

このような状況も踏まえ、第二言語習得及び英語教育を専門とする前田ゼミと国際交流サークルであるKSCGが主催し、2023年12月16日に志賀町と地域連携して小学校英語教育プロジェクトを行った。

2 活動の内容

金沢星稜大学グローバルコモンズに、小学生11名と大学生12名が集まった。午前中はアイスブレイク活動として『名刺交換 exchange a card』を行った。午後からは、『英語でビンゴ』や英語で指示された色に触る『カラフルタッチング』などを行った。以下、活動の内容と学生の感想を紹介する。

■名刺交換 exchange a card

内容：名刺作成後、自己紹介も兼ねてオリジナルの名刺を3枚作成してもらう。名刺サイズに切られた画用紙にカラーペンやシールでデコレーションをして、「名前」「好きな食べ物」「趣味」を英語で書いてもらう。教室内を動き回って、自分の名刺と相手の名刺を交換する。

感想：アイスブレイクに時間をかけることで、その後の活動への積極性が変わってくるのではないかと感じた。「上手だね」「すごいね」などと声をかけ続けてあげることが大切だと思った。「上手だね、英語好きなの？」と聞いたら、「英語話せるようになりたい！」などと小学生の方から積極的に話してくれるようになった。

■英語でビンゴ

内容：ビンゴゲームは小学生にとっても馴染みがあり、ルール説明に時間を割かなくてもよい分、マスを埋める際、動物の名前やスポーツの名前などの英単語に触れてもらう時間を多くした。

感想：子ども達の反応が想像以上に良かった。子ども達の知っている英単語が多く、発音も想像を超えるほど良かったので、さらに英語の練習としての要素を強めていく必要があることが分かった。

■カラフルタッチング

内容：音楽が流れている間、教室を歩き続ける。途中で、英語で色が言われるので、その色を探してタッチする。その後、言われた英語の色と触っている色が一致しているかみんなで見合わせていく。

感想：子ども達が思った以上に積極的で驚いた。文字を書く、発音することなど、難しくてもやろうとする心を持っていた。メキメキと成長していく様子を見て、小学生の素直さや吸収力にも驚いた。難易度や問題数の調整が課題だと分かった。

3 まとめ

参加した小学生からは「えいごが苦手だったけど、大学生のみんなとっしょに英語が覚えられてよかった」という感想が聞かれ、大きな成果があったと考えている。

本報告書の作成にあたり、前田ゼミ3年の小杉舞実さんが活動内容や感想をまとめてくれた。活動を担当してくれた小島瑠華さんにも感謝したい。本プロジェクトにあたりご協力いただいた皆様に心からお礼申し上げたい。